

汚水処理施設

家庭から流れてきた汚水は、下水管を通り、まず沈砂池に入ります。この池をゆっくり流れる間に下水の中の大きなゴミや砂を取り除いたあと、いくつかのプロセスを通過してきれいな水に変わっていきます。

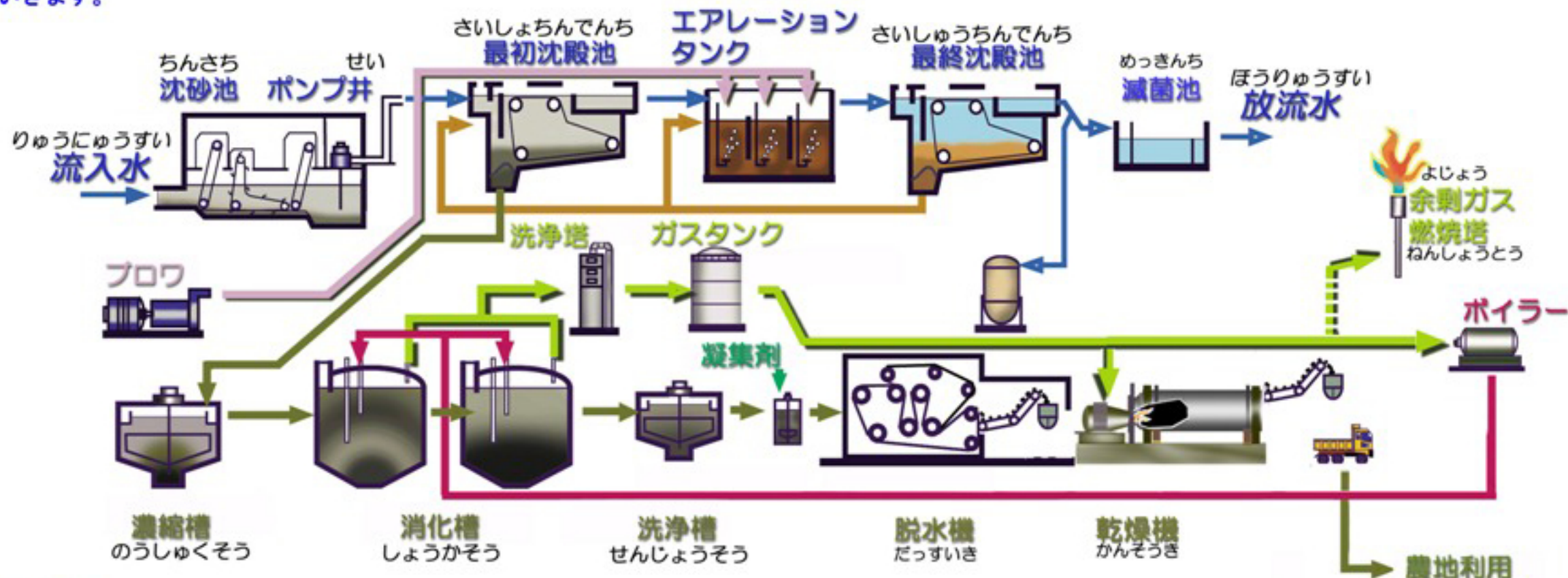
最初沈殿池

沈砂池で取り除けなかった細かいよごれを池の底に沈めます。

エアレーションタンク
目に見えない小さな生物の入った泥（活性汚泥）を加え、空気を吹き込んでかきまぜます。下水中のよごれは微生物の栄養として吸収されます。

最終沈殿池
活性汚泥と下水が混じりあったエアレーションタンク混合液をゆっくり流すと活性汚泥は下に沈み、池の上部は澄んだ水になります。

滅菌池
きれいになった水に消毒剤を加え、大腸菌などを殺して、釧路川に放流します。



汚泥処理施設

汚水処理施設から出てくる汚泥（おでい）には水分や腐りやすい成分が多く含まれています。汚泥処理施設では汚泥の水分を除いて量を減らすとともに、腐りやすい成分を減らして、汚泥をリサイクルしやすい性質のものにします。

消化槽
汚泥の腐りやすい成分[有機物]を発酵により分解します。このとき発生するメタンガスは処理施設の燃料として再利用されます。

脱水機
どろどろの状態から水分を絞って粘土状の「脱水ケーキ」にします。

乾燥機
さらに水分を取り除きます。
[平成19年より]

農地利用（汚泥肥料）
下水汚泥は牧草地などの肥料としてリサイクルされます。